

夜、執刀医が様子を見に来られ、「心配ですか」「全てお任せしてありますから何も心配していません」。医師は「そう、それはいい」と言われ帰られました。手術のスタッフを決めて下さった方と遣わされた10人のスタッフに、心からの信頼を持って、前夜も当日も心騒がせることなく、手術室に向かえた事に心から感謝。手術後の方が大変。胸の上方からみぞおちまで切り開いたのに、4日目にはもう抜糸、ドレーン抜去法とか、2日目には、体のあちこちチューブが付いたままトイレ、洗顔。自分の足で歩けることが本当に嬉しかった。朝6時の検温から、夜9時の消灯まで、検査、手当て、医師の検診。寝ようと横になるときの痛さは退院まで続き、枕から頭を持ち上げ体を起す。横になり頭をつけるときの痛さは結構長い間続いた。2週間で退院と言われて、まだこんなに痛みがあるのに？大丈夫なの？。熱も出ていないし、副作用も起していない状態だし、早く病院から出た方が治りが早いのです、と説明された。主治医からの退院後の説明を受けた時、「前述の2週間云々と食事の説明を受け」手術の穴については、ほころびることはありませんかとの質問に、「ゴアテックスと言うテントに使う様な、厚い大変丈夫な布地で穴をふさぎ周りをしっかり縫い付けてありますから心配はありません」とのこと。

神父様をはじめ、お見舞いに来て下さった方々の顔を見て、人と会うのがこんなに嬉しい事とは！ 教会に久しぶりに顔を出したときにも、皆さん本当に心配して下さい、心から感謝せずにいられませんでした。

慈しみ深い聖母、中和田教会の兄弟姉妹の上に御憐れみを限りなく与え給わんことを！



）！！ 中和田から遊びに参りました」 会・横浜聖クリストファー教会訪問記

布教委員 竹内広治

本聖公会・横浜聖クリストファー教会から、片山司祭と何人かの信徒の子どもと歓談されたことは、広報「なかわだ」6月号に報告致しましたの
思います。その折りにこれからは日を選び、相互訪問をして交わりを深め、
した。

5月11日の日曜日、今日はこちらがお訪ねする日です。ごミサの後、同行する人たちと時間を調整中、遠くかすかに雷鳴が轟いたと思う間もなく、泉区の空は一天俄にかき曇って激しい雷雨となり、しかも最近都市部に珍しい大粒の雹がバラバラバラバラ。修繕したばかりのお聖堂の屋根が抜けるかと思われる程でした。この現象をお覚えの方もいらっしゃるでしょう。なんとも出足をくじかれて、いささか消沈気味でしたが、幸いなこと、お約束の時刻には何事もなかったように晴れ上がりました。5月9日、たしかあの日も雨だったと記憶しますから、「雨降って、地固まる」で固いお付き合いになるでしょう。

さて今日お訪ねする教会のある泉区領家は、美しく整備された住宅地で、瀟洒なしかも個性的な住宅が建ち並ぶ、私には限りなき羨望の街であり、今でもあり続いているのです。教会はその街の道路に面した一画、立地条件は申し分なしで羨ましい限りです。建物は決して大きくはありませんが、環境になじんだ静かな雰囲気を感じられます。信徒の皆様は招かれお聖堂に入ります。正面大きな十字架が浮き上がったように見え印象的です。内部は木目調の柔らかいトーンに包まれていて、気持ちが落ち着きホッと致します。

歓談はお聖堂のなか、テーブルを運び並べて席をしつらえました。椅子は堅牢で立派な木製。伺うと本来は礼拝式の時に椅子だけを並べ、必要ある時にテーブルを運び入れ、会議や食事に使用するのだそうです。毎主日の朝9:30よりキッズ・ファーム(日曜学校)があり、11:00から聖餐式(ミサ)。終わった後は先ほどの手順でレイアウト替え、お食事をご一緒なされる方が多いそうです。中和田教会の何かのパーティーを思い出しますね。

歓談はまだ続きます。片山先生からは聖公会の上級組織とか、教区レベル役員の選挙と投票権のこととか、我々には耳新しい珍しいことばかりです。お迎え下さった信徒の方々のなかには、教会草創時から続いている財政の苦労話を訥々となされるのを聞くと、何処も同じと感慨深いのですが、たまたま資金調達の手段として教会バザーの話となり、似たもの同士でバザー往来も面白そうとなりました。

訪問もそろそろおしまいしなければなりません。熱心に応接して下さい下さった皆様のお気持ちと、率直なご意見ご質問を有り難くお受けいたし、教会の運営に些かなりともお手伝いできたらと考えております。



— 4 —